

## 令和4年度第1回美しい宮崎づくり推進有識者会議 議事要旨

### 1 日時

令和4年8月10日（水）午後1時30分から午後2時20分

### 2 場所

県庁7号館3階735号室

### 3 出席委員（9名）

議長 関西 剛康、委員 三穂 貴秀、委員 鶴田 安彦  
委員 中嶋 敬介、委員 海老原 邦子、委員 谷越 衣久子  
委員 永井 佐代子、委員 福永 栄子、委員 若松 正樹  
委員 後藤 章二  
(欠席) 委員 根岸 裕孝、委員 日高 茂信、委員 中島 雅隆

### 4 議事等

【議事】美しい宮崎づくり推進計画のフォローアップについて（資料1、参考資料1～3）

【意見交換】今後の美しい宮崎づくりの推進について

### 5 委員からの主な意見等

#### 【議事】

- 推進計画には、生物の生息地保護や漁場環境の保全等についても謳っている。  
これらは美しい宮崎づくりの根底だと思うので、難しいとは思いますが他分野と連携して取り組んでいただきたい。
- 今期10年間の重点施策1から3については良い目標だと思うので、次の10年間はどういう目標でいくのか楽しみである。
- コロナ禍で景観へのデメリットとして何があったか知りたい。
- コロナ禍でどんな影響があったか気になっていた。  
女子プロゴルフトーナメント（リコーカップ）を担当しており、選手や主催者の日本女子プロゴルフ協会から宮崎のまちなみが素晴らしい、草木が綺麗でいつも楽しみにしている。是非継続していただきたいという声をいただくため、大事な取組だと思う。
- 観光客入込客数について、令和2年度に比べ令和3年度は減少しており、県外からの観光客はやはり減少しているが、県内の観光客の比率は約5%増えた。  
宿泊者数についても、昨年度は令和2年度よりも2.5%増加した。これは、宿泊業者や旅行代理店の努力だと思う。我々も皆さんと勉強しながら徐々に目標を達成できるよう努めてまいりたい。
- 沿線にお住まいの方をはじめ、地域住民の高齢化や人口減少が気になっている。  
以前、草刈りや樹木の伐採等を実施してくださっていた地域の方々から、高齢で作業ができなくて、申し訳ない。という連絡を直接いただくこともある。また、耕作放棄地の増加についても、同様の原因だと思う。  
活動団体は貴重な存在であり、そんな団体を把握することはとても大事。また、団体への支援についても考えていかなければいけない段階だと考える。
- 公共事業においては、河川では水辺空間や景観への取組が盛んだが、道路は造

るばかりで、景観の活用や保全が今後の課題だと考える。

- 美しくする人づくりが非常に重要だと思っている。  
宮崎市においても、講演会やコンクール等を開催し啓発事業を進めているが、ある程度興味を持っている人は参加してくれるが、それ以外の方々を引き込むのが難しい。
- 景観は何をもって成果とするのか、それが難しいと思う。  
景観は観光地としての付加価値を高めることができると思うが、どういった目標を持って進めていくかが課題だと思う。

#### 【意見交換】

- 景観は観光誘客にとって大きな要素だと捉えている。  
昨年度、サイクリングを取り込んだモニターツアーを実施した。県北、県南、県央、県西、高千穂の5つのコースについて、各コースの魅力や問題点についてモニターから意見をいただいた。  
魅力については、絶景・グルメの他、観光スポットの充実、トイレが綺麗。  
問題点については、コースによっては、車が併走する道では舗装に不具合があり走りにくかった、草刈りや低木の伐採がされていない場所があった等の意見があった。  
観光地の磨き上げや受入整備に非常に役立っており、誘客にとってなくてはならないと再認識している。  
市町村、観光協会、観光事業者、二次交通事業者との連携が重要だと思う。
- 県にはクリーンロードのように有償ボランティア制度があり、県管轄の道路では民間の力として活用されているが、市町村の道路においても同様の制度があればいいと思う。
- 企業と地元の協働ができるようになると活動団体の高齢化問題の解消できると考える。例えば、沿道を綺麗にしたら企業が儲ける、企業にメリットがある仕組みをつくる。
- 訪れた人にも取り組んでもらうといい。その場所を訪れた人の手で綺麗にしてもらおう。地元の人の中に加わり取り組んでもうらことで、活気が出て若い人が取り組むきっかけになると思う。
- 美しい宮崎づくりの新しい指標として、宮崎を美しくする人の数「〇人」を入れると良いと思う。
- 国、県、市町村の連携について、県がリーダーシップをとらなければいけないと思う。
- 観光と景観と一言で言っても、いくつかモデル分けできると考える。例えば、観光資源となる景観、観光をサポートする景観等、見える化することで、県が推進するもの、国や市町村が推進するものが具体的に見えてくるのではないか。
- 取組を継続するために、まずはモデルを作る。ビジネスにするならばそれを企業に落としこむなどしないと、単に目標数値の達成だけに終わってしまう。